

研究課題：久米民十郎研究の活動時期の文化環境の調査のための学祭的研究

本研究は前年度の研究推進費を受けた「久米民十郎研究のための一次資料調査と学際的ネットワークの設営」の継続事業であり、当初の目的には前年度までの研究成果を広く国際学会で発表し、その評価を国外の研究者に問うことがあった。この点に関しては以下のように成果があったと判断できる。

(1)2019年7月、赤井・真鍋がアイルランドで開催された国際アイルランド文学協会大会に参加し、イエイツの専門家と情報を共有した。赤井と真鍋は *Yeats and his Contemporaries: Playwriting and Criticism* のセッションで以下のような研究発表を行った。(7月26日)

Akiko Manabe, "Adaptation of Literary Works as a New Form of Criticism: Japanese Contemporary Artists' Experiment with Yeats and Hearn"

Toshio Akai, "Who Sang Behind the Hawk's Dance? The Formation of Oriental Images in Yeats's Play"

(2)2019年10月、赤井がギリシャで開催された国際神智学史学会で以下を口頭発表し、専門家と情報を共有した。(10月12日)

Toshio Akai, "Tamijurro Kume and International Lodge, Tokyo"

(3)2019年12月、真鍋がフランスで開催された国際イエイツ協会大会で以下を口頭発表し、専門家と情報を共有した。(12月13日)

Akiko Manabe, "Yeats' Encounter with Love and Desire in *Noh* and *Kyogen*"

(4)2020年3月、赤井とチャプコヴァーがインドで開催された「1920年4月24日マザーのボンディシェリー帰還百周年記念特別展示会」にて以下の招待講演を行い、専門家と情報を共有した。(3月1日)

Toshio Akai, "The Mother's Four Years in Japan, A Few Visible and Many Invisible" (オンライン参加)

Helena Capkova, "On Universal Beauty - Japanese Aesthetics, the Golconde and Antonín and Noémi Raymond"

また国内では2020年1月18日に開催した公開研究会にて赤井とチャプコヴァーが以下のような口頭発表を行い、参加者との情報共有、意見交換を行った。

赤井敏夫「久米民十郎、霊媒画家としての可能性」

ヘレナ・チャプコヴァー「Art and Spirituality」

また本研究会においては、平野直子（駒沢女子大学）を招聘し、久米が関係した可能性の高い修養団体・太霊道に関して専門的知見の提供を受けた。また平野は以下の口頭発表を行った。

平野直子「両大戦間の宗教運動と太霊道」

このように研究成果の発表という面では本研究の当初目的を達成できたが、次の発展に直結する新たな資料の発掘に関しては、メンバーの健康面の不良や新型コロナ・ウィルスの猖獗による国内外の移動禁止という予測不可能な事態が生じたため、予定していた目標までにははるかに達することができなかった。